

生ごみリサイクルをはじめよう②

コンポストを準備しよう

ベランダなどに置くコンポストを準備します。ふたが付いている深めの発泡スチロールの箱があると便利ですが、無い場合は、ふたが付いている衣装ケースでも代用できます。



衣装ケース

1. 布のふた

コンポストにはシーツの使い古しなどの布をかぶせて、一部をゴムにしたひもなどでしっかり留めます。通気性がよい状態にして、コンポストの中に虫が入らないようにします。



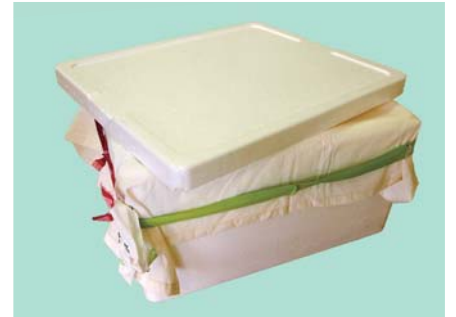
布のふたをした衣装ケース



布のふたをした発泡スチロール

2. 容器のふた

外の気温が低い時などは、布のふたの上に容器のふたを少しずらして置き、コンポストの温度を上げます。容器のふたを置いたままにしていると、コンポストが酸欠になるため、普段はふたを容器の下などに置いておきます。



容器のふたをした発泡スチロール

3. 基材

コンポストを始める前、基材が乾燥している場合は50～60%の湿気を与えましょう。

湿気を与えるために、米のとぎ汁、牛乳容器のすすぎ水、ジュース・お酒・ビールの飲み残しなどを利用します。

生ごみを入れよう

生ごみの80～90%は水分です。生ごみを投入すると水分が増えるため、毎日よくかき混ぜて空気を入れ、水分調整をします。また、生ごみを基材の上に出していると、青カビが発生します。生ごみを入れたら、容器全体に空気が入るようによくかき混ぜます。

① 生ごみを入れます。



② 生ごみが見えなくなるまで、基材に混ぜ込みます。



③ ①と②をくり返します。水分が少ない時は、水分を入れます。



<堆肥を作りましょう>

生ごみを投入するのをやめて1～2ヶ月の間は、生ごみが消えるまでよく混ぜます。堆肥が出来上がったかどうかを確認するためには、ポリ袋に堆肥を入れ、空気が入らないようにゴム留めをします。3～4日置いてそのままなら熟成堆肥。空気が入ったように膨らめば、まだガスが発生している未熟堆肥なので、混ぜる作業を続けます。